2017

日中大学フェア＆フォーラム　in CHINA2017
開催報告書

国立研究開発法人　科学技術振興機構
中国総合研究交流センター

CONTENTS

日中大学フェア＆フォーラム in CHINA 2017

開催趣旨・・1

開催概要・・2

1.「日中大学学長個別会談」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

2.「日中交流会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

3.「日中大学フォーラム」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

4.「日中大学マッチング会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

5.「日中研究成果・技術フェア」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

6.「中国企業、杭州市内および烏鎮見学」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

7.「アンケート」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

日中大学フェア＆フォーラム in CHINA　2017

＜開催趣旨＞

アジアは 21 世紀の成長センターと言われている。事実、中国を初めとするアジアの成長は著しい。成長を牽引するのはイノベーションであり、次世代アジアのイノベーションを担う国際人材の育成は、日本と中国双方の喫緊の課題である。

「日中大学フェア&フォーラム in CHINA 2017」(以下 F&F)は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が主催、今回で通算 11 回目の開催となる。とくに中国での開催は 5 回目となる。日中関係の厳しさを乗り越え、現在では日中間で行われる最大規模の学術交流イベントとなっている。

F&F のミッションは 3 つある。一つは日中間の大学交流である。アジアのイノベーションを牽引する日本と中国の大学が、共通の課題を克服するため、今後も連携することはきわめて重要である。

二つ目は留学の促進だ。いまや中国から海外に留学する学生の数は 50 万人を超えるのに対し、日本からの留学生は 6 万人に留まっている。知のグローバルな循環と人的ネットワークの拡大・深化が必須となっている。

三つ目は産学連携である。大学での研究成果は社会に生かされて初めて生きた技術となる。大学、企業、研究機関のグローバルな連携は、イノベーション創出の基礎である。

今回の F&F では「大学の国際化と国際人材の育成」「大学の地域貢献」、それに「実践的技術者の育成」をテーマに「フォーラム」を開催、日本側 25 校、中国側 27 校の大学・高等専門学校等の学長クラスが一同に会し、熱心な討論が繰り広げられた。今回の F&F の特徴は地方大学からの参加が多く、また高等専門学校が初めて参加した。

さらに「大学フェア」はこれまで中国教育部傘下の中国留学服務中心が主催する「中国国際教育巡回展」に参加する形で行われていたが、初めて JST が独自に主催、場所も上海中心の開催となった。

＜開催概要＞

日程：　平成 29 年 5 月 13 日（土）-16 日（火）
場所：　中華人民共和国　上海市、浙江省杭州市
主催：　国立研究開発法人科学技術振興機構、中華人民共和国国家外国専門家局
後援：　浙江省科学技術庁、在上海日本国総領事館、日本貿易振興機構、
　　日本学術振興会、上海市欧美同学会、上海市留学人員連合会、中国留日同学総会

5 月 13 日（土）
「日中大学学長個別会談」
目的：　日中大学・高等専門学校トップ同士の面談および意見交換の場を提供
時間：　15：30-17：30
場所:　上海マート（上海世貿商城、上海市長寧区興義路 99 号）
参加者：日中大学・高等専門学校学長（もしくは学長レベル相当者）

日本側出席者：

１）	秋田大学	山本　文雄　学長
２）	茨城大学	三村　信男　学長
３）	岩手大学	岩渕　明　学長
４）	愛媛大学	安川　正貴　副学長
５）	お茶の水女子大学	室伏　きみ子　学長
６）	岐阜大学	森脇　久隆　学長
７）	九州工業大学	尾家　祐二　学長
８）	九州大学	久保　千春　総長
９）	高知大学	受田　浩之　副学長
１０）	神戸大学	武田　廣　学長
１１）	上智大学	江馬　一弘　副学長
１２）	信州大学	田中　清　副学長
１３）	中央大学	加藤　俊一　副学長
１４）	東京都市大学	三木　千壽　学長
１５）	東京理科大学	藤嶋　昭　学長
１６）	豊橋技術科学大学	大貝　彰　副学長
１７）	名古屋大学	渡辺　芳人　理事・副学長
１８）	名古屋工業大学	鵜飼　裕之　学長
１９）	新潟大学	高橋　均　副学長/高橋　秀樹　副学長
２０）	浜松医科大学	山本　清二　理事・副学長
２１）	福井大学	眞弓　光文　学長
２２）	横浜国立大学	長谷部　勇一　学長
２３）	和歌山大学	瀧　寛和　学長/呉　海元　副学長
２４）	鹿児島工業高等専門学校	丁子　哲治　校長
２５）	福島工業高等専門学校	中村　隆行　校長

「日中交流会」

目的：　日中関係者の面識･面談および交流のプラットフォームを提供

時間：　18：00-20：00

場所:　上海マート（上海世貿商城、上海市長寧区興義路 99 号）

参加者：日中政府、大学・高等専門学校、研究機関、企業、メディア関係者など、

5 月 14 日（日）

「日中大学フォーラム」

目的：大学経営、国際化、人材育成など日中共同の課題についての発表および議論

時間：　9：30-15：00

場所:　上海マート（上海世貿商城、上海市長寧区興義路 99 号）

参加者：日中政府、大学・高等専門学校、研究機関、企業、メディア関係者など、

午前の部

・9：30－9：50　主催側挨拶

	夏　兵	中国国際人材交流協会弁公室主任
	安藤　慶明	科学技術振興機構理事

・9：50－10：10 来賓挨拶

	余　成斌	上海市人力資源・社会保障局副局長
	孫　建明	教育部留学服務中心主任
	真先　正人	文部科学省大臣官房審議官（科学技術･学術政策局担当）
	片山　和之	在上海日本国総領事
・10：10－10：40	基調講演①	名和　豊春　北海道大学総長
・10：40－11：10	基調講演②	丁　仲礼　中国科学院大学学長
・11：10－11：30	さくらサイエンスプラン紹介	沖村　憲樹　科学技術振興機構特別顧問

午後の部：13：00-15：00

分科会（5 会場にて同時開催）

＜大学国際化および国際人材育成について（1）＞

モデレータ：	三木　千壽	東京都市大学学長
パネリスト：	金　冬寒	上海大学学長
	宋　永華	浙江大学副学長
	席　酉民	西交利物浦大学執行学長
	熊　思東	蘇州大学学長
	沈　偉其	寧波ノッティンカム大学副学長
	張　栄	山東大学学長
	尾家　祐二	九州工業大学学長
	長谷部　勇一	横浜国立大学学長
	室伏　きみ子	お茶の水女子大学学長
	森脇　久隆	岐阜大学学長
	安川　正貴	愛媛大学副学長

＜大学国際化および国際人材育成について（2）＞

モデレータ：	黄　震	上海交通大学副学長
パネリスト：	陳　崗	吉林大学常務副学長
	胡　文平	天津大学副学長
	張　宏	暨南大学副学長
	張　衛紅	西北工業大学副学長
	朱　敏	華南理工大学副学長
	江馬　一弘	上智大学副学長
	加藤　俊一	中央大学副学長
	武田　廣	神戸大学学長
	藤嶋　昭	東京理科大学学長
	山本　文雄	秋田大学学長
	渡辺　芳人	名古屋大学理事・副総長

＜大学における地域貢献のあり方(1)＞

モデレータ：	鵜飼　裕之	名古屋工業大学学長
パネリスト：	陳　新	広東工業大学学長
	李　大勇	ハルビン理工大学学長
	李　俊傑	チベット大学副学長
	趙　継	東北大学学長
	張　洪海	曲阜師範大学学長
	岩渕　明	岩手大学学長
	受田　浩之	高知大学副学長
	瀧　寛和	和歌山大学学長

＜大学における地域貢献のあり方（2）＞

モデレータ：	宋　永臣	大連理工大学副学長
パネリスト：	伍　江	同済大学常務副学長
	韓　傑才	ハルビン工業大学副学長
	曲江尚瑪	青海大学副学長
	眞弓　光文	福井大学学長
	三村　信男	茨城大学学長
	山本　清二	浜松医科大学理事・副学長
	若山　正人	九州大学理事・副学長

＜実践的技術者の育成について＞

モデレータ：	谷口　功	国立高等専門学校機構理事長
パネリスト：	陳　斌	上海出版印刷高等専科学校校長
	黄　鋼	上海健康医学院学長
	王　頴	蘇州工業園服務職業学院常務副学長
	葉　飛帆	紹興文理学院学長

張　慧波　　寧波職業技術学院校長
大村　浩志　　国立高等専門学校機構本部事務局次長
丁子　哲治　　鹿児島工業高等専門学校校長
中村　隆行　　福島工業高等専門学校校長

「日中大学マッチング会」

目的：　日中大学・高等専門学校、研究者、日本に留学希望者などマッチングの場を提供
時間:午後 15：00-17：00
場所:上海マート
参加者：日本の大学、高等専門学校の国際、研究、留学生担当者など
対象者：中国各地の大学・高等専門学校の関係者、学生など

参加大学、学校、機関（45 校、機関）:
秋田大学、岩手大学、愛媛大学、大阪大学、大阪市立大学、大阪電気通信大学、お茶の水女子大学、加計学園、関西学院大学、岐阜大学、九州大学、工学院大学、高知大学、神戸大学、首都大学東京、上智大学、千葉大学、中央大学、中部大学、電気通信大学、東京都市大学、東京理科大学、豊橋技術科学大学、名古屋大学、名古屋工業大学、新潟大学、浜松医科大学、広島大学、国立大学・3 大学合同（岡山大学、島根大学、山口大学）、福井大学、三重大学、横浜国立大学、立教大学、立命館大学、和歌山大学、早稲田大学、福島工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、理化学研究所、在上海日本国総領事館、福井県工業技術センター、日本貿易振興機構、日本学生支援機構、日本学術振興会、科学技術振興機構

5 月 15 日（月）

「日中研究成果・技術フェア」

目的：日本の大学・高等専門学校、団体、企業の研究成果・企業の技術シーズの展示、および日本側出展者と中国側来場者とのマッチングの場の提供
会場：三立開元名都ホテル（住所：杭州市下城区紹興路 538 号）

午前：9：30-11：30　挨拶、講演
挨拶：　馮　飛　　浙江省人民政府常務副省長
　　有馬　朗人　　国立研究開発法人科学技術振興機構　中国総合研究交流センター長

講演 1：浙江省における中国持続可能な経済成長への貢献　（15 分）
　　周　国輝　　浙江省科学技術庁長
講演 2：浙江省のイノベーションについて（予定）（15 分）
　　凌　雲　　浙江省経済与信息化委員会副主任
講演 3：日本の中小企業への支援に関する取組み　　（15 分）
　　渡部　寿彦　　独立行政法人中小企業基盤整備機構理事
講演 4：北九州市における環境問題の克服と中国課題解決への貢献　（15 分）
　　松永　守央　　公益財団法人北九州産業学術推進機構理事長

講演 5： 日本の技術人材活用について　（15 分）
　　奈良　人司　　公益社団法人日本技術士会専務理事
講演 6： 科学技術振興機構の産学官連携における取組み　（15 分）
　　齊藤　仁志　　国立研究開発法人科学技術振興機構副理事

午後：13：30-15：30　展示・商談
「シーズ展示」セッション
・日本技術説明会を併設
使用言語：日本語、中国語（日中逐次通訳）
参加者：政府関係者、大学・研究所、企業、技術仲介業者、メディア、など

出展大学、団体、企業（31 校、機関、企業）：
岩手大学、大阪電気通信大学、香川大学、岐阜大学、熊本大学、高知大学、首都大学東京、上智大学、中央大学、中部大学、電気通信大学、東京理科大学、新潟大学、福井大学、立命館大学、和歌山大学、福島工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、理化学研究所、北九州アジア低炭素化センター、福井県工業技術センター、日中経済協会、日本貿易振興機構、科学技術振興機構、日本華人華僑創新協会、Ｆ2 株式会社、海門诺蒋高飛生物技術有限公司、江門塚田理研汽車飾件有限公司、東伸工業株式会社、東洋紡高機能製品貿易（上海）有限公司、寧波蓋済医療有限公司、一般社団法人ときの羽根

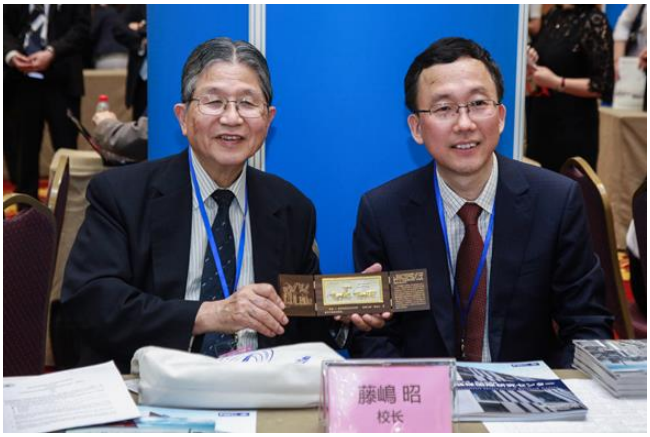
5 月 16 日（火）　杭州、烏鎮
「中国企業、杭州市内及び周辺見学」
時間：　10：00-15：00　杭州市内又は周辺（見学先選定中）
対象者：日本からの訪中者（希望者のみ）
見学先：智慧 e 谷、海康威視ほか

1.「日中大学学長個別会談」

今回の F&F には日本から 45 の大学・研究機関・高等専門学校が参加した。「日中大学学長個別会談」は初日の 5 月 13 日の午後、上海市の上海マートで行われた。個別会談は事前登録制で、あらかじめ日本の大学と中国の学長の面談時間がセットされ、概ね各大学 6 つの大学との個別会談が予定されていた。しかし中国側学長の関心は高く、各大学とも時間をオーバーし、予定の 6 つをはるかに超えて、10 以上の中国側大学と面談するケースもあった。中国側からは短期留学や交換留学、さらには教員の派遣や共同研究の提案などがあったという。

＜予想を超える数の学校関係者が来場した＞

個別会談に参加した東京理科大学の藤嶋昭学長は、「学生交流の協定を結びたいという要請が多かった。ダブルディグリーを含めて、研究者より学生を送りたいという方が多かった」と語った。また学長による個別会談の試みには、「学長・副学長が来て、責任を持って話をしなければ交流は進まない。今回は素晴らしく活発で、一番いいやり方だ。」と絶賛した。



＜藤嶋昭　東京理科大学学長と来場者＞

また東京都市大学の三木千壽学長は「ダブルディグリーをやりたいというところがあった。今は難しいと答えた。その前に『さくらサイエンス』を使うのがいいと提案した。日本に対する関心は高い。」と語った。ただ、「さくらサイエンスプラン」については、「意外に知られてないとの印象を持った」と語った。

一方中国側の反応だが、海南熱帯海洋学院の寥民生副校長は「学部の創設や研究者の交流のためにパイプを作って日本の大学と交流したい。私の大学は海洋関係が強いので、ほかの分野も強くしたい。」と語った。

また上海理工大学の関係者は、「学生や研究者の交流を考えている。パイプを作ってサマースクールなどができればいい。若い人たちが互いの文化を知ることはいいことだ。」と語った。

さらに中国東北大学の関係者からは、「若い人たちの世界観を広げることが大切だ。中国から行くだけでなく、日本の学生にも中国に来てほしい。」と呼びかけた。

＜熱気に包まれる会場＞

なお、個別会談の運営について、「面談を希望したが、締め切りが早くて申込みが出来なかった」との意見もあり、今後の運営方法に一工夫が必要だ。

会場は 300 人を越える関係者で熱気にあふれた。

2.「日中交流会」

学長らによる個別会談の後、F&F 恒例となった「日中交流会」が開催され、日中の学術関係者およそ 400 人が参加して旧交を温めた。

主催者を代表してあいさつに立った中国総合研究交流センターの伊藤宗太郎副センター長は、「日中交流の発展に向けて、フォーラムを実りあるものにして欲しい」と語った。

一方中国側の蔵広陵上海市欧米同学会常務副会長は、自らの留学経験を語った上で、「上海は心の広い都市です。ぜひたくさんの人たちに来て欲しい」と呼びかけると、会場からは思わず拍手が上がった。人的ネットワークを広げる上で、絶好の交流の場となった「日中交流会」は、和やかな雰囲気のうちに終了した。

＜多くの参加者による交流の和が広がった＞

3.「日中大学フォーラム」

今回の「日中大学フォーラム」は、大学の国際化、グローバル人材の育成のほか、大学の地域貢献や高度技術人材の育成をテーマに行われた。

＜夏兵　中国国際人材交流協会弁公室主任＞

冒頭あいさつに立った中国国際人材交流協会弁公室の夏兵主任は、「国際人材の育成、大学の地域貢献、実践的技術者の育成は両国の共通の課題。チャレンジしなければならない。人材交流は国と国の関係の基礎。貿易、教育、研究の興隆につながる。両国の利益になる。日本と中国は一衣帯水の隣国。状況がどう変わろうとも両国の友情は変わらない。」と語った。

また安藤慶明科学技術振興機構理事は、「『環境』『エネルギー』『防災』などの分野で日中間が協力する必要がある。」とフォーラムの重要性を強調した。一方、来賓としてあいさつした余成斌上海市人力資源・社会保障局副局長は、「上海市は上海で博士号を取った外国人に就労許可を与えるなど、30 項目の規制緩和を行った。5 年連続で外国人にとって最も魅力的な都市となった。」と、上海での開催の意義を強調した。

さらに教育部留学服務中心の孫建民主任は、「留学服務中心は日中両国の学術、人材交流に貢献してきた。今後も人材育成や研究のグローバル化に貢献していきたい。」と日中間の学術交流への意気込みを語った。

日本側の来賓として、真先正人文部科学省大臣官房審議官は、「ドイツでは第 4 次産業革命と言われ、AI, ICT, ビッグデータなどを進めている。日本ではソサイエティー5.0 と位置付けて、オープン・イノベーションづくりを進めている。世界的な大競争時代に入った。日中で何ができるかは重要なテーマだ。」と語った。

＜真先正人　文部科学省大臣官房審議官＞

さらに片山和之在上海日本国総領事は、「今年は国交正常化 45 周年だ。30 年前に中国に留学したが、現在は当時と比べ物にならないくらい大きく発展した。辛口になるが、日本の大学は中国人留学生を引き付

けるだけの魅力的な大学であって欲しい。」と述べた。

基調講演に立った北海道大学の名和豊春総長は、北海道大学の魅力を紹介した。特に国際化について、

＜名和豊春　北海道大学総長＞

「クラーク以来、英語での教育は伝統であり、大学の理念だ。低温科学や人獣共通感染症の研究など、地域の特性を生かした研究を行っている。」と紹介した。また食の宝庫である北海道の魅力に触れ、「北海道は四季を通じて美しく、食べ物もおいしい。中国人観光客は 200 万人を超えた。ぜひ来てほしい。」と呼びかけた。

中国側の基調講演を行った丁仲礼中国科学院大学学長は、中国科学院傘下で大学院教育を中心とする中国科学院大学の現状を紹介した。

＜丁仲礼　中国科学院大学学長＞

その中で「大学院生の数は 4 万 6000 人」と紹介すると、日本の大学関係者から驚きの声が上がった。丁学長はまた、「大学院生の半分が博士課程にすすむ。理学系博士の 3 分の 1 を輩出している。理学博士、工学博士は中国でナンバーワンだ。」と胸を張った。

また、沖村憲樹科学技術振興機構特別顧問は「さくらサイエンスプラン」について紹介した。その中で沖村特別顧問は、「中国の科学技術は日本を抜いた。今後はアメリカも抜くだろう。『さくらサイエンスプラン』は、来年度 1 万人、将来は 3 万人に伸ばしたい。」と抱負を語った。

午後行われた分科会は、「大学の国際化および人材育成」、「大学における地域貢献のあり方」、「実践的技術者の育成について」の 3 つのテーマで、5 つの会場に分かれて日中の学長クラスが討論を行った。

＜第一分科会会場の様子＞

第一分科会は東京都市大学の三木千壽学長がモデレータを務め、「大学国際化及び国際人材育成」について、日中双方から 12 名の学長・副学長が参加して行われた。

第二分科会は上海交通大学の黄震副学長をモデレータに、同様のテーマで 12 名の学長・副学長で討論が行われた。

第三分科会は名古屋工業大学の鵜飼裕之学長がモデレータを務め、「大学における地域貢献のあり方」について、日中双方から 9 名の学長・副学長が参加して討論が行われた。

第四分科会は大連理工大学の宋永臣副学長がモデレータを務め、8 名の学長・副学長が参加して、討論が行われた。

今回初めてテーマとして取り上げられた第五分科会の「実践的技術者の育成について」では、日本から高等専門学校の校長らが参加、国立高等専門学校機構の谷口功理事長がモデレータを勤める中、活発な議論が行われた。高等専門学校という制度について、中国側の関心も高かったことから詳報する。

まずモデレータの谷口功日本国立高等専門学校機構理事長が、日本の高等専門学校のシステムを紹介、とかく低く見られがちな高専について、「5-7 年かけて一流の技術者を育てる日本のユニークなシステムだ。高度な技術者は『社会を発展させる医者』である。」と強調した。

＜谷口功　国立高等専門学校機構理事長＞

一方、中国側も社会のニーズに合わせた技術者の養成が急務となっている。　上海出版印刷高等専科学校の陳斌校長は、「中国最初の出版専門学校で、すでに 6 万人の卒業生が出版界で活躍している」と紹介した。

また上海健康医学院の黄鋼学長は、「中国では大病院はいい先生がいるが、末端の病院は先生がいない。診断を受ければ受けるほど、病気が悪くなるという状況で、応用型の医療人材育成のニーズは高い。」と述べた。同校では解剖にしり込みする学生に対し、3D の学習空間を作り、バーチャルな解剖実習ができるようにするなど、新しい試みを展開している。

アウトソースの専門学校である蘇州工業園服務職業学院の王頴副校長は、「金融、貿易サービス、文化創造、IT、ソフト開発、ネットワーク、ナノテク、バイオなど広範囲の領域をカバーする人材を、企業のニーズに合わせて育成している」と成果を強調した。

紹興文理学院の葉飛帆院長は、「教師を失業させないため、課程をモジュール化している。」と語った。同様に寧波職業技術学院の張慧波校長は、「企業に教職員を派遣し、失敗も学ばせる。コンサル等で派遣される教師には株の 3%が与えられ、インセンティブがある。」と、教員確保の重要性を強調した。

一方、鹿児島工業高等専門学校の丁子哲治校長は、「54 年前の鹿児島には、産業も工場もなかったが人口は 200 万人と多かった。人材を育成して東京に送った。大学レベルの技術者を中学卒業後 5 年で育成した。」と経験を語った。

また東日本大震災で大きな被害をこうむった福島から参加した福島工業高等専門学校の中村隆行校長は、「原発事故があったので、廃炉関係の人材育成も始めている。ロボット開発、廃棄物処理、防災・減災、廃炉のほか、再生可能エネルギーや原子力安全のコースも創設した。」と語った。

この後の討論では、高専と大学の待遇格差や学生の確保、それに設備投資の重要性などについて議論が交わされた。

4. 「日中大学マッチング会」

フォーラム終了後、会場では日本から参加した 45 の大学・団体によるフェアが行われた。会場には 300 人を超える留学希望者や大学関係者が、日本の大学のブースを訪れた。親子連れで会場を訪れた留学希望者は、留学の手続きや奨学金などについて、熱心に聴いていた。

＜にぎわうマッチング会場の様子＞

また中国側大学からは学生や教員の交換や協定の締結、それに共同研究の提案があったという。さらには中国企業から専門家の派遣を要請される大学もあった。

F&F は上海での日程を、盛況のうちに終えた。

5.「日中研究成果・技術フェア」

F&F は上海から場所を杭州に移して、日本の大学・高専・研究機関による「研究成果・技術フェア」が行われた。

浙江省人民政府馮飛常務副省長からの祝辞の後、中国総合研究交流センターの有馬朗人センター長があいさつに立った。

＜有馬朗人　JST 中国総合研究交流センター長＞

この中で有馬センター長は、「日本の科学技術は大問題を抱えている。かつて論文数で世界第 2 位だったが、今は第 5 位だ。日本の高等教育に対する財政支出は GDP のわずか 0.6%で、OECD の中で最低だ。しかも国公立大学への交付金を毎年 1%ずつ減額するという、最もやってはいけないことをしている」と、厳しく警鐘を鳴らした。

今回のフェアは浙江省科学技術庁の強いイニシアチブで実現した。周国輝庁長は講演で、北京で 5 月 15-16 日に開催された「一帯一路フォーラム」との関連に触れ、「今回のフェアは、習主席の提唱する『平和の道』『繁栄の道』『開かれた道』『文明の道』という考え方に呼応している」と、開催の意義を強調した。

この後、凌雲経済与信息化委員会副主任が浙江省の経済状況を説明、日本側からは 4 名の専門家が講演を行った。

(独)中小企業基盤整備機構の渡部寿彦理事は、「中小企業は産業の基盤である」と述べたうえで、380 万社ある中小企業のうち、140 万社を黒字化させる「日本再興戦略」について紹介した。

公益財団法人北九州産業学術推進機構の松永守央理事長は、高度成長期に大気汚染や水質汚染で悩まされた北九州が、約 20 年で公害問題を解決した時の取り組みについて当時の写真を示しながら紹介した。「当時は息をするのも苦しかった。汚染を抑えることで GDP が上昇することから、グリーン・イノベーションと言える」と経験を語った。

公益財団法人日本技術士会の奈良人司専務理事は、技術士制度について紹介した。その中で企業部門の研究者数が、2000 年と比べて中国では 17 倍に伸びているのに対し、日本では 1.2 倍でしかないと懸念を表明した。

最後に科学技術振興機構の齊藤仁志副理事が産学官連携の取り組みの中で、2011 年の東日本大震災後、被災地の企業を支援するため、震災復興センターを創設した経験を語った。齋藤副理事は当時の写真を示しながら、「震災を風化させてはならない」と強調した。

会場は、約 400 人の参加者であふれ、日中双方の講演に熱心に耳を傾けていた。

＜会場はほぼ満員、日本の技術への関心の高さが伺える＞

午後行われた「技術説明会」には、香川大学、熊本大学、新潟大学、電気通信大学、福井大学、首都大学東京、岩手大学、東京理科大学、鹿児島工業高等専門学校のほか、合わせて 15 の大学・研究機関から、独自に開発した技術の説明会が開かれた。食品関連技術、光触媒、新材料、それに機械関連のプレゼンが注目を集めた。

＜各ブースには日中通訳を配置＞

また商談会には 33 大学・研究機関等が参加、中国側企業・大学とのマッチングや商談が行われた。

食品関係のプレゼンを行った新潟大学のブースには、20 社を超える企業、大学が列を作ったほか、同じく食品関係技術の紹介をした香川大学、医療関連の立命館大学、光触媒の東京理科大学、ロボット関連の和歌山大学など、10 社を超える企業・大学から引き合いがあったという。

＜新潟大学はサンプルを持参し、来場者の関心を集めた＞

浙江省は習近平主席がかつて党委員会書記を務めたことから、イノベーションにかける熱意は強い。日本側参加者からは、改めて中国の発展の速度に驚きの声が聞かれるとともに、相互信頼に基づいた協力関係の構築が重要との声が多く聞かれた。

6.「中国企業、杭州市内および烏鎮見学」

最終日の 16 日は、杭州市の企業見学が行われた。当初見学予定だった中国最大のベンチャー企業のひとつ、「アリババ」の見学はキャンセルとなったが、セキュリティー関連の海康威視などを見学した。

＜中国の最新監視カメラシステムについての展示＞

同社では画像診断技術を使い、監視カメラに映る人物の年齢、性別、身長などを判断するソフトを開発、全国で利用されているという。参加者はショールームで自分の姿をカメラに映しながら、説明を聞いた。

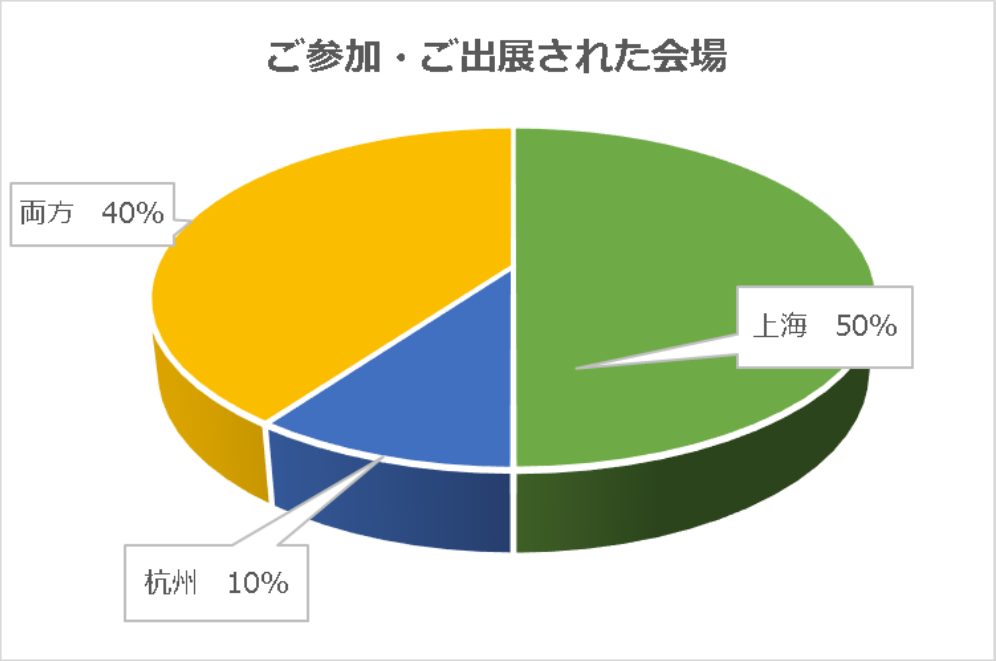
一行は西湖周辺を散策した後、烏鎮に向かった。烏鎮は江南で最も美しい水郷の一つとして知られ、旧市街などの町並みや風景を楽しんだ。

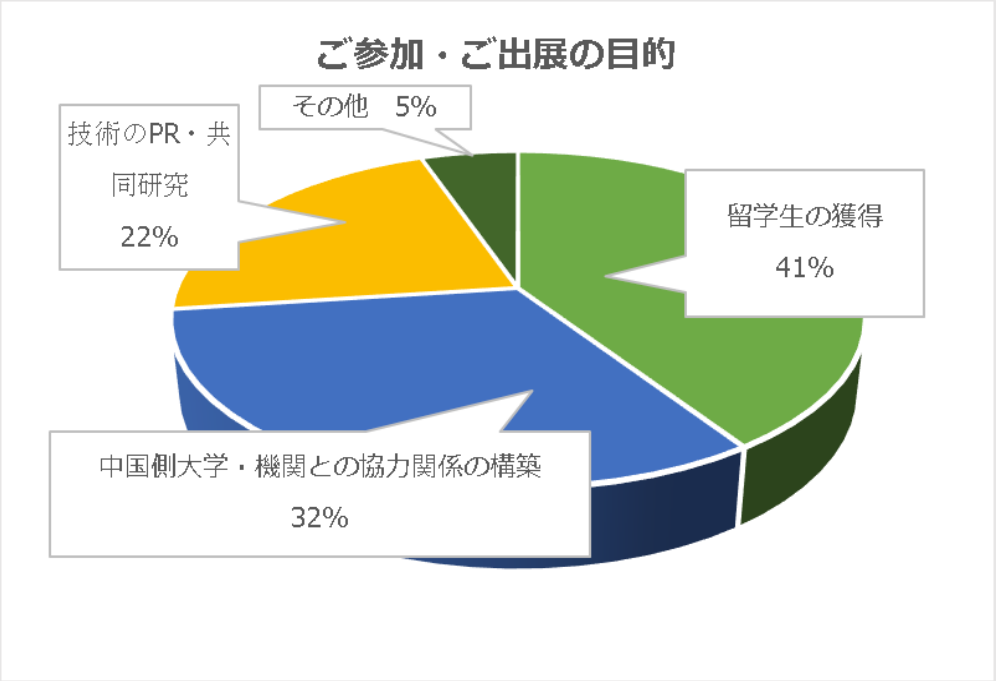
「日中大学フェア&フォーラム　in CHINA 2017」は、成功裏のうちに全ての日程を終了した。

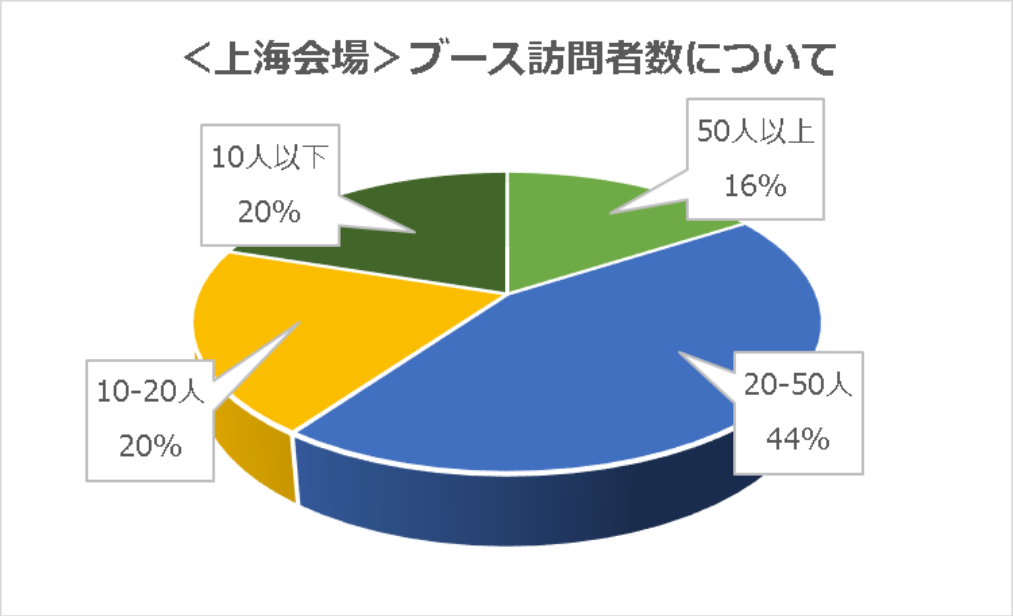
＜烏鎮にて、日本側参加者の皆様と JST スタッフ＞

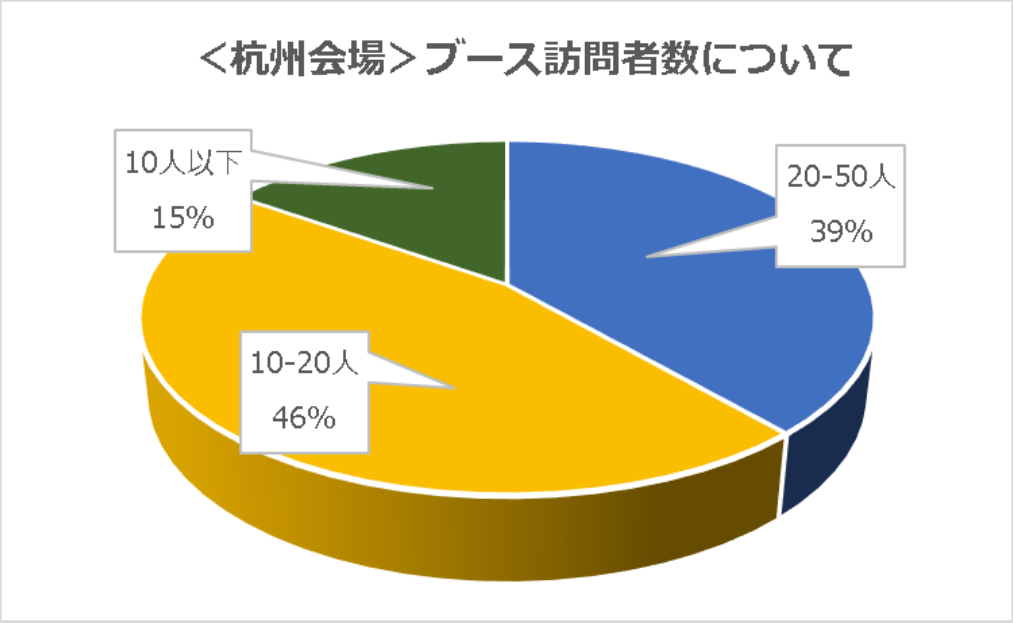
7. 出展･参加者アンケート集計

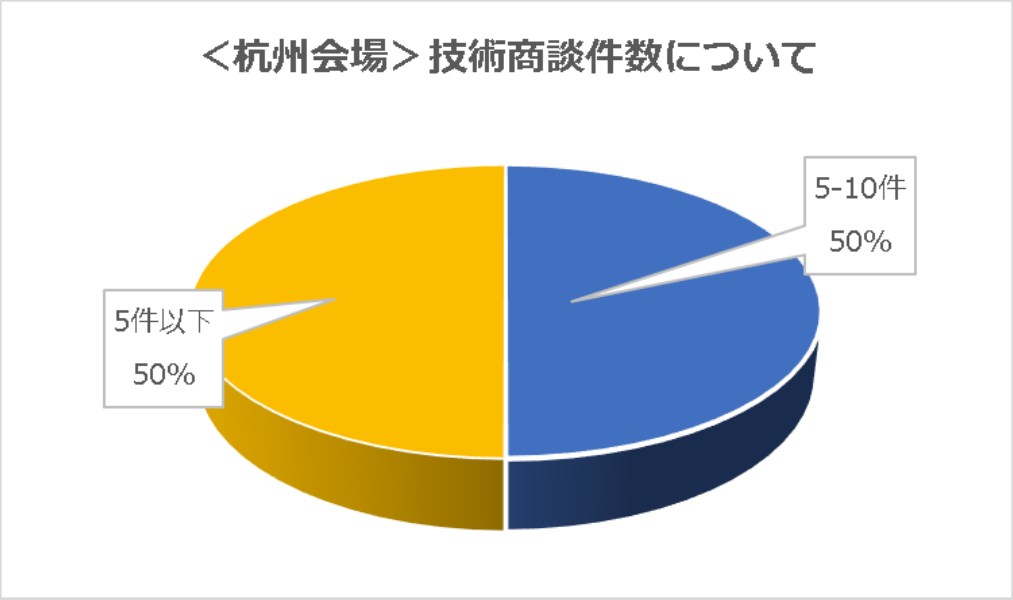
有効回答数 30

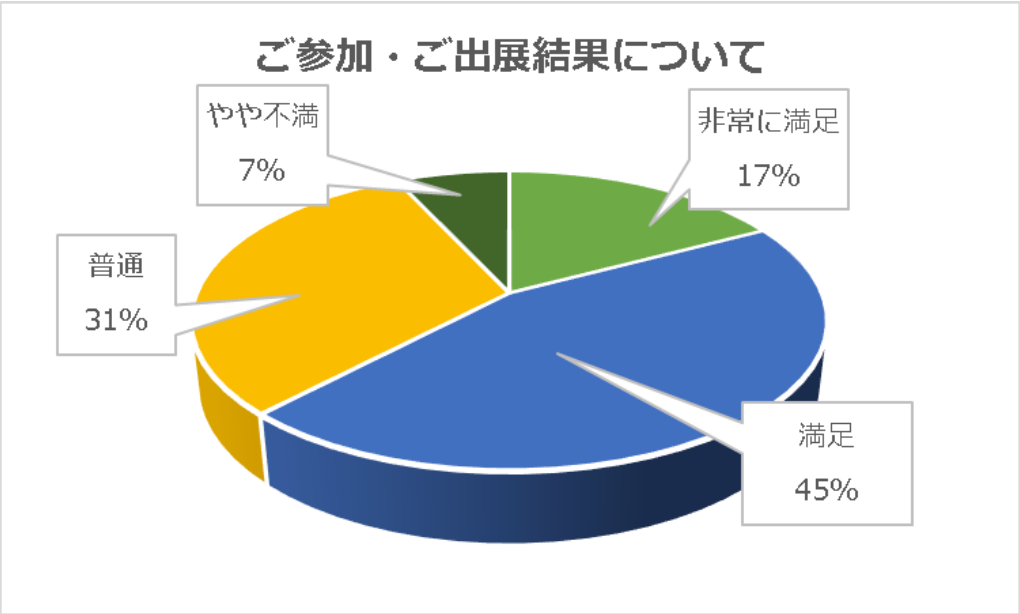





＜上海会場＞ブース訪問者数について
10人以下
20%
50人以上
16%
10-20人
20%
20-50人
44%

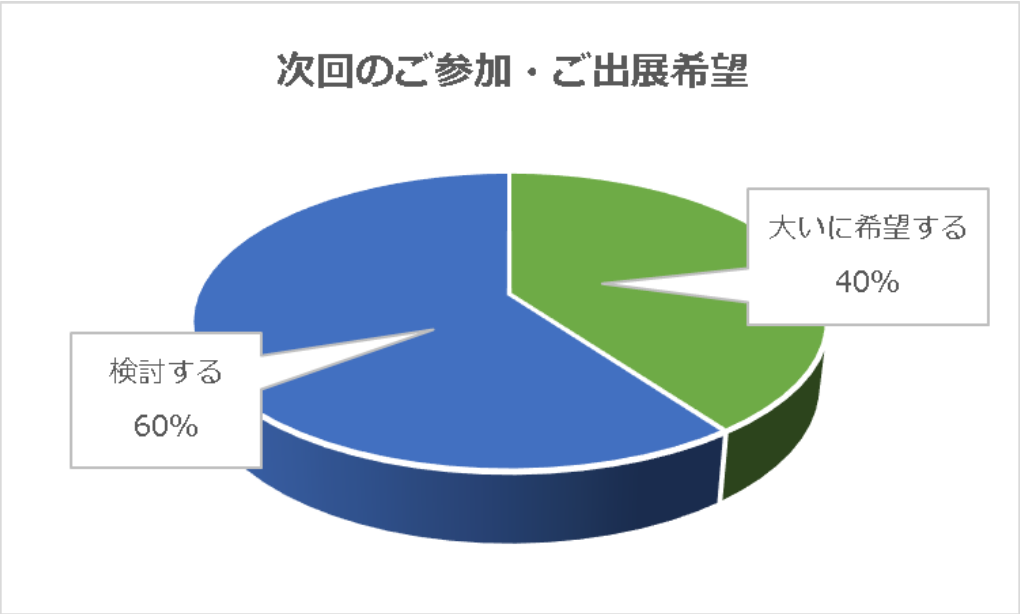

＜杭州会場＞ブース訪問者数について
10人以下
15%
20-50人
39%
10-20人
46%


＜杭州会場＞技術商談件数について
5-10件
50%
5件以下
50%



留学生とのマッチング会は、ある特定の外国語大学の学生が目立ちました。また、大学関係者（職員等）も来られていましたが、私たちの少ない時間を奪っていた上に、協定についての話合いはこのようなところでは出来るはずがありません。来場者にも会の目的をしっかり伝えていただく必要があると思います。学生が来やすい様な場所（大学など）や、時間帯（平日、もしくは土曜日の午後がよい）、参加方法（ネットでの広報を検討下さい。事前に教えて頂いた申込フォームの検索は中国の Google「百度」ではヒットしませんでした）などについて、もう少し、現地の機関と連携するなどしていただけたら、もっと良かったと思います。とはいえ、前年の北京・済南会場よりも多くの学生が集中的に来て、なんとか出張に出させてもらっている身としては、「義務」はこなせた感じですし、今年はいろいろと検討してくださった結果のものと思います。大変な人数を取りまとめていらっしゃるので、ご苦労もあるかと思いますが、現地に来てから、たった少しの距離でのバスの移動にもたついたり（結局歩きました）など、様々なことの連絡がスムーズに行かないのを見ると、主催者側がきちんとマネジメントできていないようにも見えました。
本学に進学を希望する学生と本学の入試形態が合致しておらず、ミスマッチが多く見受けられたため。
休む間もなく多数の方がブースに来訪して話ができた。また、大学関係者だけでなく日本留学をめざす高校生やその保護者と話ができたのも有益だった。
交流協定を締結している大学との交流協議に加え、留学希望者との面談、新規交流先との面談ができた。
日中大学 F&F における JST の対応は必要十分なものであった.
上海の会場では、日本への留学先を検討している学生が多く、目立った交流はできなかった。 杭州会場では民間も含めブース訪問者は多く、ある程度の目的は達成できた。持ち込んだ技術紹介の冊子はすべて配布できた。

中国の各機関だけでなく日本の大学・高専などの機関関係者との情報交換やネットワークの構築ができ，有意義であった。
学生の生の声が聞けて良かった。
中国国内の状況把握ができた。
留学生に限らず、多方面から問合せを受けたことを通じて、中国の活況を感じとることができた。また、他大学の国際支援担当の職員の方々との情報交換を通じて、有益な情報を多く得ることができた。
来場された日本語学校2校と今後の留学生推薦、募集について話を進めています。志願者の続出を期待します。
中国企業、大学の研究者等のニーズを聞く事が出来たから。
山口大、島根大との共同で出展したので、本学自体のアピールと言うよりは、中国地区大学のアピールにはなったと思う。
初めて中国でしたが、新しい技術やその実用化に対する関心の高さを知ることができた。中国における権利化の重要性を再確認した。
本学として、もう少し企業に売り込めるシーズを選定する必要があったかもしれず、次回は今年度の感触を踏まえシーズの検討をしたい。
環境について研究しているため、今回の展示と企業から求められているものがマッチした。
イベントの趣旨をうまくつかめず、現地に行ってわかったので、準備内容がマッチングしなかった。
協定内容や実際のやり方など細部にわたり意見交換が可能であり問題点の抽出もできた感がある。



ぜひ参加することを検討したいと思います。
日程等によるが、参加する方向で検討する。
中国からの留学生拡大と国際共同研究など連携を強化できるように検討したい.
検討はさせていただきます。福井県企業の製品の売込みで成果につながる見込みがあれば参加の意義はあります。しかし、今回のブース訪問者からは、ものを買うのではなく、技術がほしいと要望するケースが多く、中国と本県企業との技術提携の実現性は難しいため、参加の可能性は低いと思われます。
高等専門学校では国際的に通用する実践的、創造的技術者の育成を目指している。特に、国立高専の中でグローバル高専としての位置づけられている本校としては、教育・研究の積極的な国際化を図っており、その意味で近年経済成長が著しい中国との学術交流は重要だと考えている。
留学生の獲得に有益であると思われるため
今回得た知見を活かし、より具体的な留学生確保につなげてゆきたい。
次回の開催時期が今年と同様（5月2週目の週末）であれば、是非とも参加・出展させて頂きます。
海外に向けた広報という面で効果的であるものの、技術マッチングという面では若干難しさがあるため、今後の出展については総合的な費用対効果についても考慮した上で検討していく。
大学の研究が社会へ役立つ機会を提供してくれる場所であり、すばらしい展示会です。
中国との大学間協定をさらに推進したいと考えている。

その他自由記入欄

今年で2回目の参加ということで、昨年にお会いした方々と再会して楽しい交流が出来ました。さらに、新しいメンバーの方々とも情報交換をしまして、日々の業務にも幅が出来ました。ただこのような情報交換まで親しくなれるには、初日だけの参加では難しく、2日目とオプションの機会を利用してこそと思います。しかし、忙しいと思いますので、初日のみ参加の方々も多いはずです。出来ましたら、そのような時にも互いが知り合いになれるような仕掛けを作っていただければと思います。また、インフォメーションがあまりにも直前に来ましたので、一体どなたが来るのかも分かりませんでしたし、上海のブースについて壁に貼れるポスター掲示情報がなかったことは、良くないと思います。現地で大変いつも良くしてくださっているリンケージさんですが、本当に帰国後の書類のやり取りが遅くて困っております。現在も振込した領収書等の書類が未着で、（催促中）旅費手続が学内で出来ません。そのため、自己負担している期間が長くて困る上に、学内の経理担当からも何度も催促や問い合わせが来ているところです。
日中大学フォーラムについて、日中大学の国際関係の教職員同士の交流が少ないような気がします。同じテーブルに座って互いに情報交流できる機会があればよいではないかと考えています。
プログラムの構成内容や出展の趣旨・内容について、具体的なところをもっと早く教えていただけるとありがたいです。事務局に問い合わせましたが、あまり要領を得ない回答だったのでエントリーを控えたものがありましたが、実際に参加してみたら、ぜひエントリーしたい内容でした。
本学では 2 日目から参加する担当者が 1 名おりましたが、事務局指定便であったにもかかわらず、特段案内等がなかったため、個人で会場まで向かうこととなりました。もし 2 日目からの参加について、そのような対応となる場合には、事前にご連絡がいただけると助かります。
スケジュールなどは適当であったが、留学希望者がより多く参加できる企画があるとさらに良いと感じた。
翻訳を担当してもらった学生の対応は、ほぼ的確で、理解力も高いと感じた。
初めての参加だったこともありフェア&フォーラムの内容が十分に把握できず，どのような資料を準備すればよいのか戸惑った．資料として学校要覧を準備したが数が不足してしまった．事前に詳細（目的，対象，準備したほうが良い資料の例など）が分かればなお良かった。通訳についてくれた現地学生の日本語能力に差があり，込み入った話は難しい場面があった．技術商談においては専門性（特許など）に長けた通訳者があればよかった。
上海会場は参加者も多く、盛況であった。前半の日中大学フォーラムと後半の日中大学マッチング会の時間配分は、もう少し後半を増やして欲しい。
盛大なイベントをご手配いただきまして、誠にありがとうございました。幾つか気づいた点があります。 1、中国の数多くの大学の国際交流担当と面会できましたが、面会時間や順番が前後したり、予定していた時間が取れなかった状況も少なくないです。数多くの大学を取り

まとめるのが大変だと承知しておりますが、もし事前に相手大学のご要望・ご期待などがわかると、当日はさらなる効率のある対応ができたかもしれません。 2、事前にアポを取ってなかった大学もありましたので、こちらとしては、席が空いてるようであれば、対応せざるを得ない状況になります。そのため、時間のコントロールが難しくなりますし、大学として、断られないので、非常に困りました。 3、幾つかの大学から主催者に本学との面会希望を出されたとの話がありましたが、主催者側でマッチングしてくださったので、非常に助かりましたが、その状況や経緯について、こちらも相手大学も把握できてないようで、誤解を招く可能性があるかと思います。
この度は貴重な機会を頂き、ありがとうございました。中国企業の生の声を聞く事が出来た事、日本から参加したアカデミア等の方々との意見交換等、大変参考になりました。
今回、3大学合同で出展しましたが、各々に当日配布の冊子体やコングレスバックを準備して欲しかったです。もともと1ブースに1セットだったのか、不足していたのかは不明ですが、メールによる事前配布のプログラム以外、手元に何も残らなかったです。
準備から帰国までのいろいろな手配をして頂き何事も支障なく参加させて頂きました。とりわけ、杭州の地元企業の見学ツアーは大変意義あるものでした。事務局の皆様に感謝申し上げます。
日本の大学がそれぞれブースを出して、そこに中国の大学等の学長等が来て議論する機会はたいへん良かった。
大学間の共同研究促進のためのイベントがあると参加したい。
大学紹介，特に大学独自の強み等をプレゼンする場がほしい。